

災害時の地域の医療を支え、 支援を必要とする 全ての人を救う日赤

2022年8月に起きた大雨による浸水や土砂災害では、地域の家屋だけでなく、関川村への交通インフラが大きな被害を受けて、この診療所の一部のスタッフも出勤してくることが困難な状況におかれました。この診療所は、村のかかりつけ医でもあり、従来の患者さんの外来診療に加えて、災害現場での救急対応まで全て私たちだけで行うことは不可能でした。その中で、被災した翌日には長岡赤十字病院から医療チームの皆さんが駆けつけ、役場を拠点に迅速な医療支援活動をしていただいたことをとても感謝しています。特に、医療チームが村全体を万遍なく巡回し、被災の状況や

医療支援を必要としている住民の把握に動いていただいたことはとても大きかったです。私も診療所を訪れる患者さんの診療を行いながら、水害に見舞われた村の各地の方々のことをとても心配していましたが、日赤の医療チームの迅速な対応を見て、目の前の医療に全力で取り組むことができました。また、日赤の医療チームが把握された被災状況を共有させていただきましたが、その後に私自身が村内各地を巡回する時にも大変重要な情報となりました。

今回の日赤の災害時対応の知見を生かした支援は、初動から中長期的な村の復興、そして未来の防災にもつながっていくものであり、とても感銘を受けるとともに、多くの人を救う大きな支えであると実感しました。



関川診療所
所長(医師)

ひらた しょう
平田 丞さん

関川村で災害ボランティアセンター運営に携わる

地域福祉に取り組む若い世代の思い

「入職してから初めての大きな災害で、めまぐるしく動いていく状況に対応するだけで精一杯でしたが、その中でも迅速に支援活動に取り組まれている日赤の奉仕団の皆さんの姿を見て、勇気づけられたとともに、自分たちの目の前の対策業務に打ち込むことができました」



関川村
社会福祉協議会
総務課 地域福祉係
主事
あらい たいしん
荒井 太心さん

「避難した住民の方々の心身のケアを始め、さまざまなアドバイスを日赤の奉仕団の皆さんからいただきました。また、私たちでは地域の方々の状況をなかなか把握しにくい中で、日赤の医療チームが被災した現地を巡回して、隔々まで支援が届くよう活動していただいたことも大変助かりました」



関川村
社会福祉協議会
総務課 地域福祉係
主任
すがわら しずか
菅原 清夏さん

「被災者の方々への支援だけでなく、暑い中での熱中症対策などボランティアの皆さんのケアをしていただいたことも大きく、私たちも安心してボランティアセンターの運営に取り組めました。同時に、エネルギーのある若い世代のボランティアの必要性を実感し、幅広い世代への情報発信にも注力したいと思いを新たにしました」



関川村
社会福祉協議会
総務課 地域福祉係
係長
ひらた たつや
平田 達哉さん



村上市社会福祉協議会
地域福祉課長・神林支所長

さとう さゆり
佐藤 小百合さん

「ボランティアの活動で印象的だったのが、自分も被災者である地域の方々が支援活動をしていることでした。『私も助けられているから、誰かを助けたい』という言葉に、困難な状況でも助け合う精神の尊さを感じました。その年の冬には日赤のボランティアが中心となって炊き出しを行い、温かい食事を一人暮らしの方などに提供した際は、たくさんの感謝の言葉をいただけて、災害を受けた時だけでなく、長い時間をかけて地域に寄り添った支援を続けていくことの意義を再認識しました」



村上市社会福祉協議会
総務課 村上支所長

さとう ともこ
佐藤 富喜子さん

「大雨の被害状況の把握を行う中で、ボランティアセンター立上げの二日後には日赤安全奉仕団の方が駆けつけてくださり、運営協力を頂きました。暑い中現地を巡回し、熱中症への注意喚起、ケガの応急手当等、日赤の災害時活動のノウハウがあればこそその動きが、とても心強く感じられました。また、日頃から地域の人々の心身の健康を支える立場として、被災され不安を感じている住民の皆さんの目線でケアをしてくれる日赤のボランティアの存在の大切さを改めて実感しました」

被災者の目線で支援を行うボランティアの存在と助け合う心に感謝

新潟県村上市の社会福祉協議会では、災害の翌日にボランティアセンターを立ち上げ、日赤の支援を始め地元内外の団体との連携により、被災した住民のケアを開始、多岐にわたる活動に取り組まれました。

